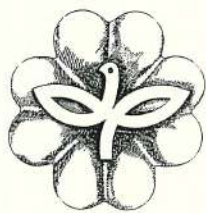


令和4年

長野市民生委員児童委員協議会 第49号



# 民児協ながの

発行 長野市民生委員児童委員協議会  
会長 伊藤 篤志  
編集 広聴広報委員会

長野市緑町1714-5  
長野市社会福祉協議会内  
電話026-225-1234

## 新年の御挨拶



長野市長  
荻原 健司

新年に当たり、謹んで御挨拶申し上げます。

このたび、多くの市民の皆様  
の温かい御支援を賜り、初当  
選の榮に浴し市政を担当させて  
いただくこととなりました。

台風災害からの復興や新型  
コロナ対策をはじめ、様々な  
市政課題に対するこれまでの  
取組を、これからは私の経験  
と考えてアップデートし、長  
野市に新しい息吹と爽やかな



長野市民生委員児童  
委員協議会  
会長 伊藤 篤志

新年にあたり謹んで御挨拶  
申し上げます。昨年11月2  
日、秋の褒章の発表があり、  
国から藍綬褒章受賞の連絡を  
頂きました。コロナの影響で  
皇居参宮は中止となり県知事  
から伝達されました。受賞は  
一重に民生児童委員の皆様始  
め地域や関係する全ての皆様  
から、長年に亘る御指導御厚  
情の賜と心から感謝申し上げ  
ます。

風を吹き込みながら、市政を更に前進  
させてまいりたいと考えております。  
民生委員児童委員の皆様におかれ  
ましては、日頃から本市の福祉行政  
について御理解、御協力を賜るとし  
もに、地域福祉の中心的立場として  
御活躍いただいていることに心から  
お礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の予  
防のため、自宅にこもりがちにな  
り、人との交流機会が減少した高齢  
者が、「フレイル（虚弱）」や「要介  
護状態」になることを予防するた  
め、本市では委員の皆様の御協力を  
いただきながら、「介護予防把握事  
業」に取り組んでおります。また、  
昨年10月には、身寄りのない高齢者  
の様々な困りごとの相談に対応する

昨年10月26日・27日に第90回全国  
民生委員児童委員大会が、京都市で  
開催され、規模も縮小され全市民児連  
関係者60名、地元民生児童委員1千  
名の参加となりました。1日目の式  
典に続き、2日目は市川一宏先生に  
よる講義とシンポジウム「地域共生  
社会の実現と民生委員・児童委員の  
新型コロナウィルス禍を踏まえて考  
える」が行われました。新型コロナ  
により住民の孤立や地域のつながり  
の希薄化が進む中、地域共生社会の  
実現に向けて、民生委員や民児協の  
活動をどのようにしていくかを講義  
されました。  
さて、このような状況の中、皆様に  
は活動を停滞させることなく御尽力  
頂き心から感謝申し上げます。誰も

「おひとりさま」安心サポート相談  
室を開設いたしました。  
こうした支援を必要とする方々の  
把握に当たりましては、地域の事情  
に通じ、住民を身近でよく知る民生  
委員児童委員のお力添えが必要であ  
りますので、今後とも各種相談機  
関へのつなぎ役として御協力をお願い  
申し上げます。

委員の皆様がこれまで築いてこら  
れた地域での信頼関係を基として、  
これからも人と人との支え合いの輪  
をつなげていただくよう御期待申し  
上げるとともに、長野市民生委員児  
童委員協議会のみならずの御発展と  
御活躍を御祈念申し上げ、御挨拶と  
させていただきます。

が笑顔で、安全に、安心して暮らす  
事の出来る地域づくりという活動の  
目標はコロナ禍でも変わりません。  
本年は一斉改選が行われます。コ  
ロナ禍で皆様の活動や研修・毎月  
の定例会等も制約を受け、新委員の皆  
さんの顔を覚えきらない内に改選と  
なってしまうと。皆様には出来れ  
ば2期、3期と継続をお願いしてお  
りますが、今期を取り戻す意味で  
も、来期挑戦してみませんか。  
本年2月24日全体研修を行いま  
す。全員の御出席をお待ちしており  
ます。  
今冬は寒さも一段と厳しい予想で  
す。健康に御留意頂き、活動を頂き  
ますようお願い致します。皆様の御  
健勝と御多幸を祈念申し上げます。

## 民生児童委員研修報告

## 動画視聴で仲間と学び合う

## ■全委員が一緒に受講

県社協主催の民生児童委員研修は、令和2年度まで経験年数の区分に応じて、1期目委員研修、2期目以上委員研修として実施されてきました。今年度は、全委員を対象とする動画とテキストが作成され、地区民児協毎に動画を視聴しながら研修を行う新方式とされました。研修の実施期間は3月上旬までとされました。

## ■動画での講義と事例学習の実施

動画では、上野谷加代子先生（同志社大学名誉教授）と羅珉京先生（長野大学准教授）による講義に加え、長野市民児協代表5人（武内一夫さん、山田治子さん、春日喜美雄さん、清水久美子さん、大池ひろ子さん）の皆さんが出演され、事例学習の実践例を示されました。

事例1では、家族や親族のいない80代のAさん、事例2では長女への虐待を繰り返す精神的に不安定なCさん、の例が取り上げられています。

## ■気づき・考え方の幅を広げる

委員は6人の小グループに分かれ、①事例の人の立場だったら、どう感じ、どうしてほしいかについて考え、意見交換する。  
②住民や関係機関の立場だったらどうしたいか。

③事例を担当する民生委員の立場だったらどうするか。

参加者は、①から③の立場にたつて個人ワーク⇨個人としての考えを深め合うこと

◇グループワーク⇨グループで考え方やアイデアを出し合い受け入れ合うこと・：を通して、一人では想像もつかない自由な発想の場を経験する貴重な機会となりました。

## ■事例学習の効果

事例を通して、様々な考え方・気づきを知り、アイデアを出し合い、受け入れ合えるようになると、単位民児協が安心して意見を出せる場、相談できる場となり、委員の絆も強まることになりました。  
今回各地区民児協において実施された動画視聴による研修状況を報告していただきました。

## 戸隠地区民児協会長

武内 一夫

11月16日、委員19名の参加のもと、動画視聴による研修会を開催しました。今回は「家族のいない80代のAさん」のケースについて実施。

研修は、委員6名ずつの3グループで動画を視聴しながら研修をしました。全員が意見を出し合ったことで、自分が気づいていない考え方に



6人のグループで意見交換

気づく場となったほか、定例会での席順とは異なるグループに編成されたため、委員の絆も深めることが出来ました。

## 学習を通じての印象や感想

- ・ 他人の意見を聞くことにより、気づきもあり勉強になった。
- ・ 事例が難しいケースだったので、もう少し一般的で身近なケースだと盛り上がったと思う。
- ・ 皆さんの意見がとても参考になり、活発な意見交換ができ充実した時間になった。

## 朝陽地区民児協会長

篠原 好明

11月11日、定例会の際、動画視聴による研修を実施しました。当日は1期目17名、2期目以上9名全員参加しました。意見交換をするので、あらかじめ2期目以上の委員が入っ



集中して交見交換

て5〜6人のグループを作りました。事例学習1から始め、テキストに沿って視聴、個人ワーク、グループワークが課題毎に進められました。事例のAさんの様な方はどの委員も多少なり経験がありました。ご本人の気持ちを考えることは一番大切なことだと思います。個人ワーク欄に書いた自分の思ったことと、グループワークで他の委員の全く違う見方をしている意見を聞くこともできました。多方面から物事を見る又は感じる大切さを学習しました。初めて訪問した時の緊張感や民生委員としてできる言葉かけのアドバイスなどが提案され、グループ内で活発に意見交換がされました。各課題毎に時間が決められていて、スムーズに進み全員が発言でき充実した時間がもてました。

篠ノ井民児協

川柳地区会長

田中美枝子

動画視聴による研修会は、12月15日、参加者89名で、篠ノ井交流センターホールで開催しました。篠ノ井民児協は6地区民児協の組織です。

ここ2年程はコロナ禍で全委員が一堂に会することが出来なかつたため、今回の研修を一堂に会し交流できる良い機会と捉え、篠ノ井全体で研修会を行いました。

課題を抱える住民との関わり方に

中条地区民児協

酒井八千代

まもなく2年になろうとするコロナ禍、対面や移動を避けるなど、多様化する人との関わり方や孤立せざるをえない環境で、民生委員・児童委員が必要とされる場面も増加していると感じています。一方で、私達自身も会議や研修など、委員相互の繋がりが確保することが困難な時期もありました。

今回、グループワークを通して、委員としてのより良いあり方を追求するだけでなく、互いに学び、支え合うことの大切さを改めて実感しました。信頼し、自由に意見交換できる仲間と今後とも邁進したいと存じます。

ついて学習・振り返りの出来る良い研修会だったと思います。今までは「あらねばならぬ」の考え方をしがちでしたが、そうではなく「それぞれ

の立場に立って考えることが大切で、本人の立場になって考えることから始める」ことや、グループワークで意見交換することにより、さまざまな考え方があがることに気づき、考え方の幅を広げることが出来ました。地区定例会でも積極的に事例学習を行い、仲間同士支え合い絆を深めていきたいと思えます。



黒岩 秀美

黒岩 秀美

民生委員のお仲間と一緒に動画による事例学習の機会をいただけたことに感謝いたします。普段地域の皆さんに関わる中で、戸惑う場面、特に自分自身の経験・体験では及ばないことに遭遇することがあります。

そんな時に思いを馳せてみる、言葉に耳を傾けることを大切にしたいと思っています。今回の事例学習で同じグループの皆さんの考え方や気づきを聴く機会を得て、こういう機会のも大切さを感じ、地区の委員の中でもお互いに悩みを聴き合う場や高め合う場が大切だと感じました。地域に住む誰もが、安心して暮らし続けられる地域になればと願っています。

海老名市南部地区民児協との

交流研修会

昨年12月2日、令和元年台風19号により被災した長沼地区を視察された神奈川県海老名市南部地区民児協との交流研修会が開催されました。

研修会には、長野市民児協伊藤会長、中澤・酒井両副会長、長沼地区深瀬会長、事務局など12名が参加しました。海老名市は神奈川県中央部に位置する人口約13万7千人、東京・横浜のベッタタウンです。

熱心に意見交換



前委員等から ①毎年防災訓練を実施(38回開催) ②避難行動要支援者台帳を基に、要支援者と避難を手伝う支援者の関係づくり(文書で要請)を進めていた ③避難指示の区の方針を伝達したが、被災委員も多く支援活動に支障 ④発災後の安否確認に日数を要したこと等課題について説明。

災害後の支援では、米山生活支援相談員から ①ボランティアへのサテライトへの配分 ②支援物資の配布 ③仮設住宅・被災家屋で生活する世帯への見守り訪問・相談、孤立防止のためのサロン活動、関係者の情報共有等について、また児童支援の活動について、石田主任児童委員部会長から説明がありました。

最後に、海老名市の活動紹介と質疑がありました。 ①避難行動要支援者台帳の作成、私の避難計画作成への委員の関わり ②避難に対する意識の違いの存在等について、予定の時間をオーバーする熱心な意見交換がなされた交流研修会となりました。

### 祝表彰 (敬称略)

次の方々が栄えある表彰を受けられました。おめでとうございます。

#### ◆藍綬褒章

伊藤篤志 (松代)

#### ◆長野県知事表彰

伊藤篤志 (松代)

#### ◆全国社会福祉協議会会長表彰

齊藤和美 (第三)、早川美知子 (古牧)

中澤敏子・山岸静子 (以上三輪)

田村トシ子 (古里)

#### ◆全国民生委員児童委員連合会会長表彰 (功労者表彰)

伊藤篤志 (松代)

#### ◆全国民生委員児童委員連合会会長表彰 (永年勤続)

#### ◆長野県社会福祉協議会会長表彰

#### ◆長野市長表彰

小林光子 (第一) 南澤圭子 (第二)

宮原正子・山岸眞由美・山田孝子・南澤弘子 (以上第三)

竹田孝司・岡田礼子・中沢祥世・笹山十三子 (以上芹田)

若麻績茂伸・和田健夫 (以上古牧)

増田幸子・黒岩康子・牧野信子・市川公子 (以上三輪)

金沢恵美子 (吉田) 牧野憲明 (古里)

坪野武茂 (若槻) 深瀬敏一 (長沼)

溝口俊子 (安茂里) 酒井國夫 (共和)

南澤厚子 (川柳) 水間暉子 (川中島)

宮入長子 (更北)

下条光子・宮下弥子 (以上七二会)

#### ◆長野市長表彰

黒岩ヒロ子 (共和)

### 「おひとりさま」あんしんサポート相談室開設

長野市においても、少子高齢化が進み、近くに頼れる家族や親族等がない、いわゆる身寄りのない「おひとりさま」の方が増えています。今は元気に暮らしていても、将来

のことで不安や心配を抱えている方の相談に広く応じるため、市では市社会福祉協議会に委託し10月から「おひとりさま」あんしんサポート相談室を開室しました。

#### ○どんなことが相談できるの

- 一人では解決が難しい様々な困り事の相談を受け付けます。
- 頼れる親族がいない方の日常の財産管理 (入院費の支払いなど)
- 任意後見制度の活用
- 亡くなった後の手続き、相続、不動産や家財の処分など
- 住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような必要なサービスや支援機関等につなげます。

#### ○相談先は

「おひとりさま」あんしんサポート相談室 ☎ 219-5115

2階 (鶴賀緑町1714-5)

・専門の職員が相談に応じます。

・相談は電話、来所、職員の訪問などで相談できます (事前予約)

将来の不安や心配ごとについて、

まだまだ元気な今から相談し考えてみませんか。

### 主任児童委員研修会開催

芹田地区主任児童委員

竹田 孝司

11月5日、主任児童委員研修会 (東北信地区) がメルパルクで開催されました。講師は明治学院大学元学長で、同大学名誉教授の松原康雄先生。新型コロナウイルス感染症防止に配慮し、「事例から学ぶ、主任児童委員の活動と役割」について講義をいただきました。

先生が中心となり令和2年3月に纏められた「地域における児童委員・主任児童委員の活動等の現状と課題に関する事例調査研究会」報告書で、先生が聞き取り調査された8の実践事例の内5例がテキストに詳細に記載されています。乳児に関する活動例が、名古屋市天白区・安中市・湖南市の3例、小学生の居場所づくりについては福岡市東区、居場所づくりに加えて乳幼児と中学生のふれあい交流会を実施している熊本市の事例が紹介されています。先生からは、成功例だけでなく、課題を含めての講義でした。

児童委員・主任児童委員だけでは限界があり、地域の方々との協力こそが活動継続の力だと、私は感じました。報告書については全国社会福祉協議会のホームページの調査・研究報告書からダウンロード出来ますので活用ください。

コロナ禍にあり私自身の主任児童委員としての活動も停滞しています。学校を訪問や、子育てサロン等で親子に接することが難しく、様々な場面で制約を受けた1年ではありましたが、これを転機に新たなコミュニケーション手段を探るなど全国的事例をお聞きする中で私も頑張ろうと、気持ちを新たにすることが出来た研修会でした。

### 編集後記

新春49号をお届け致します。新型コロナウイルスの影響で予定していた事業が出来ない状態が続いております。

「新型コロナウイルスが終息したら一番にやりたい事」を聞き取りしました処、お喋り、食事会、お祭りが90%を占めました。

最近の医学によりますと、お喋りは最も良い健康法で、舌を動かす事は全身の力を漲らせる事なのだそうです。「舌巻く健康力」です。

今年も皆様のご協力の下、紙上の対話とも言える広報を持ってお喋りの糧にして頂ければ幸いです。

(金澤)